

# 福井県立奥越高原青少年自然の家(1/2)



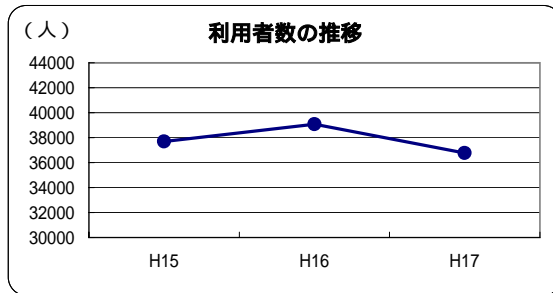
所在地	大野市南六呂師169-8		
設置年月日	昭和47年1月5日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階建、延7,335.93㎡ 宿泊室(350名)、研修室(洋2、和2)、多目的ホール、体育館、スキー用具室、キャンプ場3箇所(428名)		
職員数	職員14人		

## 利用状況等

	H15	H16	H17
利用者数(人)	37,703	39,085	36,758

## 利用者負担(利用料金)等

宿泊棟 利用料	26歳以上	1,100円
	26歳未満	620円
	高校生	470円
	小・中学生	310円



利用状況の推移	平成17年度は、小・中学生の利用者が減少傾向にある他、企業研修の利用が減ったため、前年比約2,300人の減少となっています。
---------	--

## 平成17年度の特徴について

事業実績	サマーチャレンジ教室を2回開催し、自主性・協調性・感性を高めることができ、満足できたと参加者、保護者の約97%から高い評価を得られました。
	ファミリーキャンプ・合宿通学・紅葉登山・白銀のつどい・子ども居場所づくり推進事業等、奥越高原の豊かな自然を活かした主催事業を開催し、約3,300人の参加者がありました。
	「もりっ子教室」として「星空ウオッチング」、「ハイキング教室」、「たべもの教室」(魚つかみ&空き缶飯、パンづくり、もちつき、とん汁うどんづくり)を各4回開催しました。
	キャンプカウンセラーの養成研修を開催しました。また、資質向上を図るため、カウンセラー企画によるステップアップ研修を3回開催しました。

## 近隣施設との連携

県自然保護センター・県奥越高原牧場・ミルク工房奥越前と連携した天体観望や牧場体験、アイスクリーム作り体験等を実施し、各施設のPRにもつながりました。



## 福井県立奥越高原青少年自然の家(2/2)

行政コスト計算書(平成17年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	135,254	51.1%	96.9%
	退職給与引当金繰入	420	0.2%	-
	計	135,674	51.3%	100.0%
物にかかるコスト	物件費	59,115	22.3%	102.0%
	維持補修費	7,112	2.7%	99.7%
	減価償却費	54,485	20.6%	100.1%
	計	120,712	45.6%	101.0%
その他	公債費(利子)	8,085	3.1%	39.6%
	その他	82	0.0%	100.0%
	計	8,167	3.1%	39.8%
合計		264,553	100.0%	96.0%

バランスシート(平成18年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産	前年比		負債	前年比	
有形固定資産	98%	2,189,645	固定負債	72%	224,393
投資等	-	0	流動負債	38%	87,261
流動資産	-	0	正味資産	111%	1,877,991
計	98%	2,189,645	計	98%	2,189,645

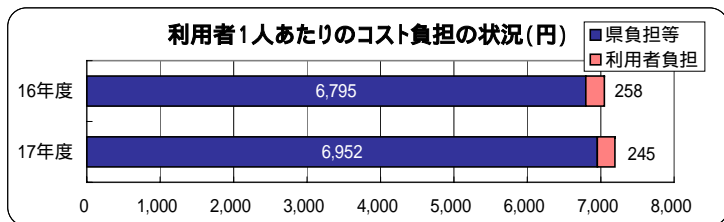


(単位 千円)

収入				
利用料等収入	8,991	3.4%	89.2%	
その他収入	671	0.3%	102.1%	
一般財源	254,891	96.3%	96.2%	

(前年比)

利用料等収入計	8,991,000 円	89.2%
利用者1人あたり平均利用料	245 円	95.0%
利用者1人あたりコスト	7,197 円	102.0%



**施設の特徴**

勝山市と大野市にまたがる奥越高原県立自然公園の標高600mに位置し、周囲にある経ヶ岳を中心とする山と渓流、隣接する六呂師スキー場を利用して、野外活動を体験できる山岳型拠点施設です。

近くに位置する県自然保護センター、県奥越高原牧場、ミルク工房奥越前などと連携を図りながら、体験活動や研修会などを実施しています。

大学生や青年を中心としたキャンプカウンセラーの養成・育成の場として活用されています。

**今後の事業方針、取組み内容**

平成17年度の利用者数は減少しましたが、今後は以下の取組みにより、利用者増を図ります。

- 広報活動の推進
  - ・学校訪問の実施
  - ・大人だけの団体やファミリー、PTA等への利用の呼びかけ
  - ・ホームページや広報誌等を利用した広報活動の推進
- 地道な利用者発掘
  - ・職員が居住する町内会等に施設の紹介を行ったり、活動メニューを充実し利用の動機付けを行う等、身近なところから関心を持っていただくことで需要を掘り起こし、利用の輪を広げる。

**バランスシート、行政コスト計算書の特徴**

平成7年に建築した建物の減価償却費や公債費のために、利用者1人あたりのコストが大きくなっています。

平成17年度は、コスト全体では前年比96.0%で減少しましたが、利用者数も減少したため、利用者1人あたりのコストは前年度よりも増加しています。

